

新たな総合計画を表すキャッチフレーズの検討について

総合計画審議会での議論を踏まえ、事務局として以下のとおり選択肢の検討を行った。
 以下の各パーツを組み合わせることを基本に、いずれの案が相応しいか検討する。

キャッチフレーズ		副題
前半	後半	
<p>やっぱり、ずっと、 ずっと、もっと、 もっと、いきいき、</p>	<p>あまがすき。 あまがさき。</p>	<p>～みんなが育ち、つながり、 活躍するまちをめざして～ ～みんながよろこぶ あまにしたい～ 副題は設定せず、キャッチフレーズの意図の説明を掲載する。</p>
<p>ありたいまちへの処方箋</p>		
<p>(趣旨)</p>		
<p>やっぱり...よいところがたくさん見つけられるまちに 「やっぱりいいまち」と思われるまちに ずっと ...ずっと住み続けたいまちに もっと ...もっとよいところを知ってもらえるまちに もっとよいまちに いきいき...ひとがいきいきと活躍するまちに</p>		<p>あまがすき... 親しみを込めた「あま」への愛着を表現。 市民懇話会提言「だから、あまがすき。」から。</p>
<p>(山本正信委員からの提案)</p> <p>あまがさき スプリングプラン ～尼崎はエエとこだよ！ このスプリングプランでモットモットよくするで～</p>		
<p>・スプリング(Spring) = 春、ばね、飛躍、泉、跳ぶ、跳ねるなどの訳がある。 ・このフレーズの意味するところは、この総合計画を後から後から湧き出る泉にたとえ、その湧き水を市民、事業者、行政が汲み上げ市中に散布することで市民力を活性化し、春のような明るい希望に満ちた都市にするぞ、との意思を示すものです。</p>		
愛称	キャッチフレーズ	
<p>ありたいまちへの____ ____に相応しい言葉を検討する。 処方箋、羅針盤、設計図、指針、道しるべ、作り方、手引き、手順、案内書、ご案内、道案内、虎の巻、ガイドブック、マニュアル、ナビゲーター、ナビゲーション、レシピ、プロトコル...</p>	<p>やっぱり、ずっと、あまがすき。 ずっと、もっと、あまがさき もっと、いきいき、あまがさき など</p>	

「ずっと、もっと、あまがさき」

この新しい総合計画は、
これからのまちづくりが、どこを目指していくのか、
どのように、まちづくりを進めていくのか、その方向を
いろんな人達と共有して取り組むためのものです。

みんなが育ち、つながり、活躍できる、
「もっと」素敵なまちにしたい。
「ずっと」住み続けたい魅力的なまちにしたい。

こうした思いをこめて、この計画を
「ずっと、もっと、あまがさき」と表現しました。

私たちのまちは、平成28年に
市制100周年という、大きな節目を迎えます。

100年を超えて
「ずっと、もっと、あまがさき」

キャッチフレーズ
総合計画

やっぱり、ずっと、あまがすき。
尼崎市総合計画

平成25年

1

キャッチフレーズ
総合計画

ずっと、もっと、あまがさき
尼崎市総合計画

平成25年

2

キャッチフレーズ
総合計画

もっと、いきいき、あまがさき
尼崎市総合計画

平成25年

3

愛称
総合計画

ありたいまちへの処方箋

尼崎市総合計画

4

愛称
総合計画

あまがさき スプリングプラン

尼崎はエエとこだよ！このスプリングプランでモットモットよくするで-

尼崎市総合計画

5

総合計画
キャッチフレーズ

尼崎市総合計画 やっぱり、ずっと、あまがさき。

平成25年

6

総合計画
キャッチフレーズ

尼崎市総合計画 ずっと、もっと、あまがさき

平成25年

7

総合計画
愛称

尼崎市総合計画 ありたいまちへの処方箋

平成25年

8

キャッチフレーズ
総合計画
愛称

ずっと、
もっと、
あまがさき

尼崎市総合計画
ありたいまちへの処方箋

平成25年

9

キャッチフレーズ
愛称
総合計画

ずっと、
もっと、
あまがさき

ありたいまちへの処方箋
尼崎市総合計画

平成25年

10

キャッチフレーズ
総合計画

ずっと、
もっと、
あまがさき

尼崎市総合計画

平成25年

11

キャッチフレーズ
総合計画

ずっと、もっと、
あまがさき！

尼崎市総合計画

平成25年

12

総合計画審議会 第10回総会において出された案

主題（キャッチフレーズ）案

ずっと、あまがさき。	やっぱり、あまがさき。
だから、あまがすき。	新生、あまがさき。
つながり・創生・あまがさき (or つながり・創生・あまがすき)	いいよ、あまがさき。
だいすき、あまがさき。	みんなでしあわせ、あまがさき。
ありがたい「あま」の考え方	ありがたい「あま」への処方箋

副題案

～みんなが育ち、つながり、活躍するまちをめざして～
～あなたのごよぶ顔が見たい～
～みんながよろこぶあまにしたい～

総合計画審議会 第10回総会での意見

- ・ 例えば、キャッチーな言葉というか、口に出しやすい、目をひきやすい言葉を持ってきたときに、それだけでは中身がわからないため、「みんなが育ち、つながり、活躍するまち」のような副題をつけ、二段構えにする手もあるのではないか。
- ・ 都市の体質転換と説明にもあったが、新たに尼崎という都市を転換していくという意味で、「新生あまがさき」または「新生あまがさきをめざして」などはどうか。
- ・ 「にぎわい・創生・あまがさき」はキャッチとしてはすごく良い。今回は何が目玉かというのと、「人が育ち、互いに支えあうまち」で、「あるものを大切にし、繋がりでカバーする」ということだと思う。そうすると、新しいフレーズを作るというよりも、「にぎわい・創生・あまがさき」を少しアレンジしてはどうか。
- ・ 「つながり」とか言うと限定されてしまうため、総合的なフレーズということでは、「やっぱり」や「ずっと」がいいのではないかと思う。そして、大切なところ、強調したいところを副題としてはどうか。
- ・ 議題は「都市像」の検討となっているが、一般的に総計の中で都市像というのは、一つの姿、目標像ということになるが、どちらかというのと、計画全体を表現する「キャッチフレーズ」という考え方で議論した方がよい。以前の総計で一生懸命箱ものをつくってきたが、今回の総計は、市民協働にチェンジするということであるため、空間イメージではなく別のものがよい。総合的にいうと、愛着や誇りをつくっていくということになる。例えば、市民懇話会の「だから、あまがすき」といった愛着が湧くものにするのもありだと思う。
- ・ 3つ大事なことがあると思う。1つめは「あるもの探し」、2つめは、「変化に機敏に対応していく」、3つめは、「人が喜ぶもの」、この3つを加えたようなキャッチフレーズができればと思う。松下幸之助の「お客さんの欲しがるものを売るな、喜ぶ物売れ」という経営理念があるが、尼崎ができる範囲でそれを提供するというニュアンスで、ニーズにどう応えるか、それにあわせて施策を決めますとニュアンスのもの。

- ・ 計画全体というよりも、「総合計画」の表紙をどうするかだと思う。インパクトがあって、「なるほど」と思ってもらえるようなものにする。「やっぱり、あまがさき」「ずっと、あまがさき」などにして、その後に副題をつけるというのが一番よい。尼崎にお住まいの方は、尼崎がすごく好きなので、そこを大事にした方がよいと思う。
- ・ 今の意見に賛成。都市に住むということは、そこに愛着を持ち、その都市のありように誇りをもつことで、非常に大事なこと。「ずっと」には、流出や流入が関係するという意見があるかと思うが、「いいよ、あまがさき」くらいがよいと思う。
- ・ こういうものは直感の方が人の魂に響くため、直感で決めた方がよいと思う。「だいすき、あまがさき」というようなものでよいと思う。
- ・ ずっと尼崎に住んでいて、良いところも、悪いところも知っていて愛着がある。そこに、この4つのまちが実現したら、市民は誇りを持つのではないか。そういう誇りを感じる言葉があればよい。
- ・ 新たに計画を策定するとなると、どうしても看板をすげ替えないといけないという発想になるが、よいものであれば継続してもよいのではないかと思う。ただ、「にぎわい」という時代ではないと思うため、私なりに考えてみたが、ネットワーク社会になっていく、コミュニティの繋がりということでいうと「つながり・創生・あまがさき」というのものもあるのかなと感じた。
- ・ 市民懇話会のキャッチフレーズ（「だから、あまがさき。」）をそのまま使ってもよい。
- ・ キャッチフレーズになるかわからないが、「あなたが喜ぶ顔が見たい」というような、この10年間これで頑張ろうよ、という掛け声みたいなキャッチフレーズもいいのではないか。
- ・ 市民は「尼崎」というより、愛着を込めて「尼」と呼んでいる。キャッチフレーズで使うのであれば、「尼」がよいと思う。キャッチにあわせて副題は必要だと思う。
- ・ 皆さんの意見を聞いていて、「ありたいまち、ありたいまち、ありたいまち」と考えていると、「蟻」と「鯛」が浮かんでくる。そういうのがイラストにならないかなと思った。蟻は働き者、鯛はおめでたい、尼崎は働き者も多いし、おめでたい人も多いし、おせっかいも多い、そういうのが尼の特徴だ、というのもありかなと思った。「あまがさき」ではなく「あまがさき」、こういうのも入りやすいかなと思う。
- ・ 何のために総合計画をつくるのかと言うと、みんなが幸せになるために作るもの。従来は豊かになろうとか、綺麗になろう、を目指してきたが、これまでの議論を振り返ると、本来の計画の根本に立ち戻って、自分たちで幸せになっていくための手掛かりとしての総合計画という視点に立ちもどった方がよいのではないかと思う。そうすると、我々が目指しているものは、「みんなで幸せになるか」「みんなが幸せになるか」のどちらかを目指すか。今回はみんなでやりましょう、ということを行っている訳なので、「みんなで幸せあまがさき」や、「みんなで幸せあまがさき」でもよい。
- ・ 今回の総合計画には行政だけでなく市民の立場で、企業の立場で考えて行こうよ、という部分がたくさん載っている。みんなで考えていかなければいけないというのが、この総合計画の大きな目玉であると思う。キャッチフレーズと言うと難しいが、総合計画の表紙として、市民の方にも見てもらえるようなイメージ、市民も一緒に考えていくんだ、ということアピールできるものがいい。「総合計画」というよりも、みんなで考えて行く材料なんだよ、というイメージの表紙ということで考えると、「ありたいあまの考え方」とか「ありたいあまの処方箋」というのはいかがでしょうか。